

# 第2回 STAMP ワークショップ発表概要

## タイトル

STAMP/STPA 事例の振り返りと GSN を用いた STPA プロセスの説明支援

Review of STAMP/STPA case studies and explanation support of STPA process using GSN

## 著者・発表者

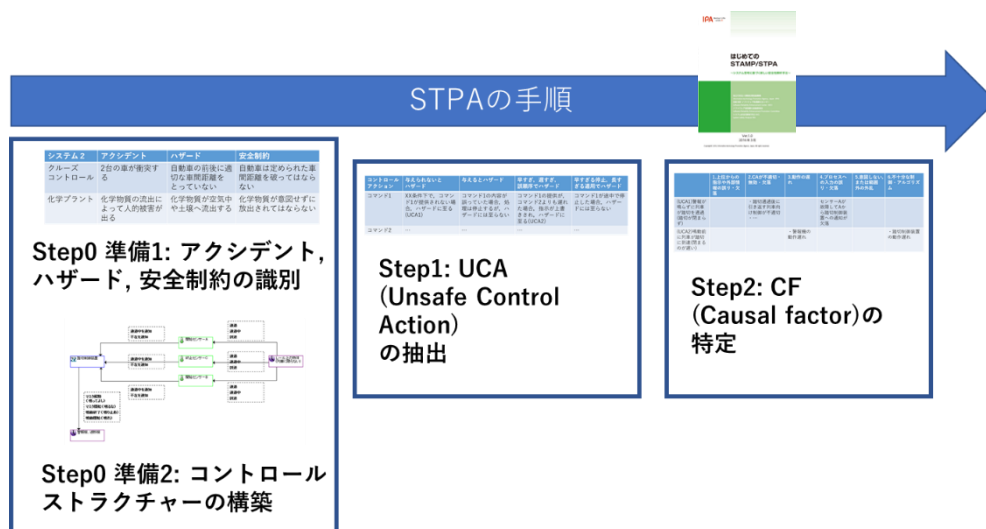
日本大学 秋山 泰澄、仙台高専 岡本 圭史、日本大学 松野 裕

Nihon university Taito Akiyama, National Institute of Technology, Sendai College Keisi Okamoto, Nihon university Yutaka Matsuno

## 概要

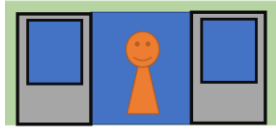
近年、STAMP/STPA 手法の試行が日本でも行われ、去年第一回 STAMP ワークショップが九州大学で開催された。しかしながら、従来のリスク分析手法（FTA,FMEA）と異なる点が多く、その実施の為のノウハウの共有は始まったばかりである。

本発表では、第一回 STAMP ワークショップで発表された事例を振り返り、STAMP/STPA を実施する上での疑問点や気づきを報告する。また、STAMP/STPA の各ステップにおいて課題になる点（例えば、アクシデント、ハザードの設定、コントロールストラクチャの設定など）について、なぜそれらのアクシデント、ハザード、コントロールストラクチャを設定したのかの説明支援を GSN（Goal Structuring Notation）を用いて行う為の GSN パターンを提案する。



STAMP の手順において、例えばハザードの設定において、なぜそのハザードが重要なのか、わからない場合がある。そのときに、其の説明を GSN で補足説明を行う。

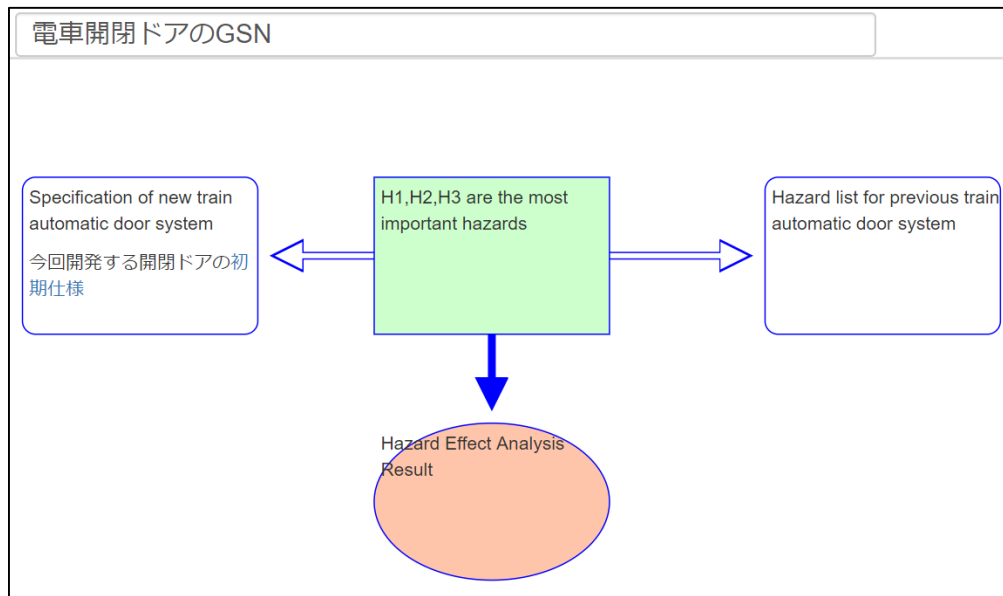
**Step0 準備1: アクシデント, ハザード, 安全制約の識別**



なぜこの3つの  
ハザードを設定したのか?  
D-Case (クリックするとGSNが見れる)

Accident (アクシデント)	Hazard (ハザード)	Safety Constraints(安全制約)
乗客が怪我をする	ドアの間に乗客がいるとき閉まる(H1)	ドアの間に乗客がいるときは必ず開いている
	電車が動いている時、プラットフォーム以外で止まっている時、ドアが開いている(H2)	電車が動いている時、プラットフォーム以外で止まっている時、ドアは緊急時以外、必ず閉まっている
	緊急時、ドアが閉まって乗客が外に出れない(H3)	緊急時は必ずドアが開く

上記のハザードが選ばれた理由を示す GSN を示す



**キーワード**

- (1) STAMP/STPA
- (2) 振り返り
- (3) 説明支援
- (4) GSN